

公共ホールのあり方検討にあたっての基本的な考え方【概要版】

令和4年8月

1. 検討の背景【本編 P1～P3】

本市では、様々な施設を保有しており、これら施設の最適な維持管理や活用等を行うため、令和4（2022）年3月に「資産マネジメント第3期実施方針」を策定するなど、3つの戦略（「戦略1 施設の長寿命化」、「戦略2 資産保有の最適化」、「戦略3 財産の有効活用」）による資産マネジメントの取組を進めてきたところです。

本市が保有する公共建築物は現時点で築30年以上のものが約5割を占めており、現状の施設を保有することを前提とすると10年後には約76%に達することから、施設機能の低下や修繕費用の増大など老朽化に伴う問題が懸念されていますが、今後見込まれる人口減少、厳しい財政環境等を踏まえると、すべての施設をこれまでと同様の規模・形態で更新していくことは非常に困難な状況です。

このような背景を踏まえ、「資産マネジメント第3期実施方針」では、特定の目的別、対象者別に施設を整備するといった従来の考え方ではなく、施設が持つ機能（施設が提供するサービス）に着目し、市民ニーズ等を把握した上で必要な機能の整備を図る「機能重視」の考え方に基づく取組が必要となるという基本認識のもと、施設が持つべき機能について検討を行うとともに、施設におけるこれまでの使用目的、対象者等や、従来の施設配置の考え方について再検討することとしています。

本市が所有する公共ホールについても築30年以上となる施設が多く、他の公共施設と同様に施設・設備の老朽化やバリアフリーへの対応などを行いながら、利用者ニーズに対応した機能の提供が求められているところであり、ホールのあり方検討は、施設の設置・利用状況などを踏まえ、施設が持つべき機能や適正配置について検討を行うものであり、ホール機能に着目した資産マネジメントの取組です。

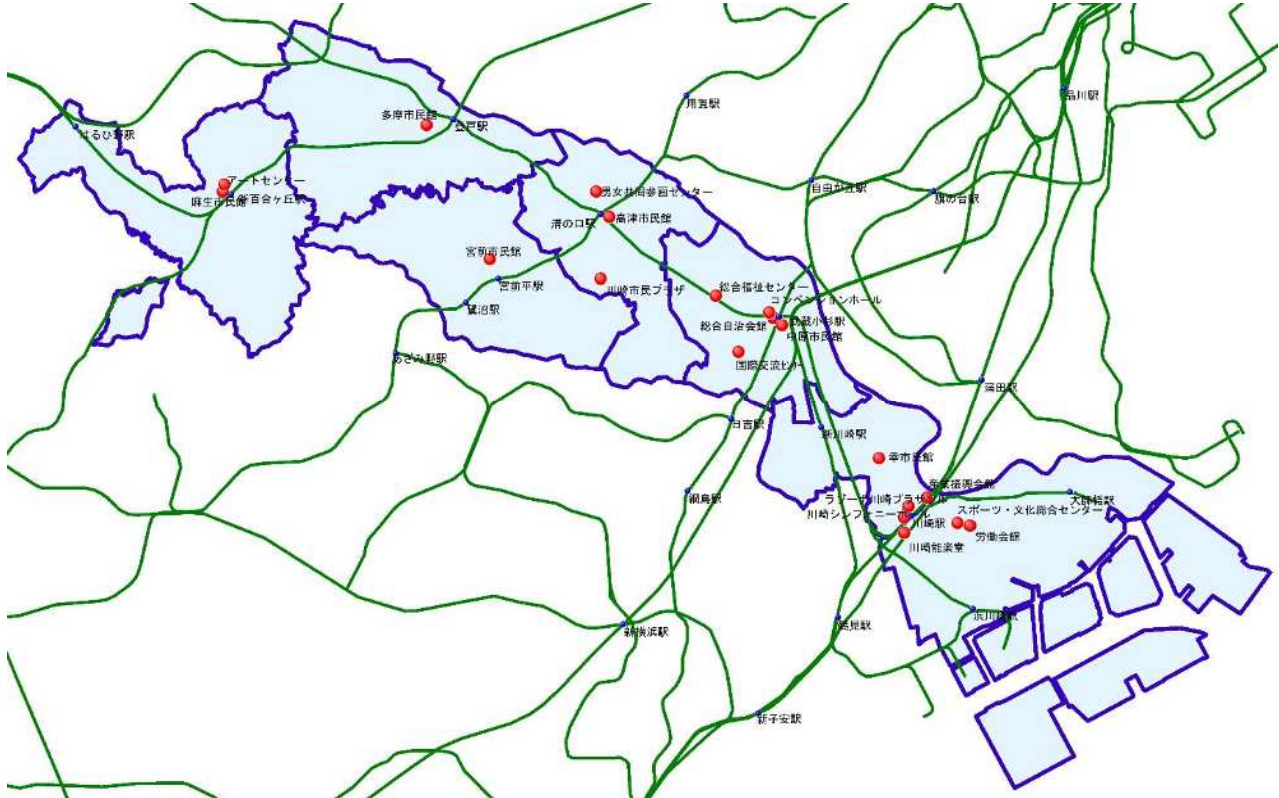
今後策定を進める『ホールのあり方』の中では、ホール機能を有する施設の将来的な適正配置、施設毎の機能分担の考え方に加え、持続可能な施設運営の考え方や複合化・改修等の検討を行う施設の考え方を整理する予定です。

『公共ホールのあり方検討にあたっての基本的な考え方』は、ホールのあり方検討の進捗状況をお示しするものであり、今後ホールのあり方検討を行う上での課題認識や検討にあたっての視点等を整理したものです。

2. 市内公共ホールの現状【本編 P4～P137】

（1）配置状況

本市が所有する公共ホールは19施設あり、配置状況は以下の通りです。



（2）各ホールの施設概要

本市が所有する各ホールの概要は以下のとおりです。

	川崎市立労働会館	スポーツ・文化総合センター
ホール内観		
所在地	川崎区富士見2-5-2	川崎区富士見1-1-4
建築年月日	昭和56年8月31日（築41年）	平成29年6月28日（築5年）
定員（客席数）	762席（固定）	2,013席（固定）
設置目的 （施策上の目的）	<u>労働組合その他諸団体における文化、慰楽、集会等</u> の使用に供し、その健全なる発達を図り、及び <u>労働者のための福利厚生</u> の施設を設け、その <u>勤労意欲の向上に資する</u> ことを目的とする。	<u>市民のスポーツ活動及び文化活動の振興</u> を図るとともに、市民相互の交流の機会を提供し、もって <u>豊かな市民生活の形成及び活力ある地域社会の実現</u> に寄与するため。
主な利用用途 （実績）	●楽器演奏・合唱 ●会議・研修・講演会等	●楽器演奏・合唱 ●会議・研修・講演会等

	川崎能楽堂	川崎市産業振興会館
ホール内観		
所在地	川崎区日進町1-3-7	幸区堀川町6-6-20
建築年月日	昭和61年4月1日（築36年）	昭和63年5月31日（築34年）
定員（客席数）	148席（固定）	478席（可動式）
設置目的 （施策上の位置付け）	市民の参加と文化芸術活動団体等との協働・連携により、高齢者や障害のある方等、誰もが気軽に文化芸術に触れ、より多くの市民が文化芸術の楽しさを享受し、本市に愛着と誇りを持ち、創造的で人間らしく感性豊かに暮らせる地域づくりを進める。	経済の国際化、高度情報化、技術革新等による産業構造の変化に対応するため、 <u>企業間における情報交流、企業の技術開発、販路開拓事業の推進等</u> を図り、もって <u>本市産業の発展と地域経済の活性化</u> に寄与するため。
主な利用用途 （実績）	●日本舞踊・能	●会議・研修・講演会等 ●楽器演奏・合唱

	幸市民館	ラゾーナ川崎プラザソル	川崎シンフォニーホール	川崎市総合自治会館	川崎市国際交流センター
ホール内観					
所在地	幸区戸手本町1－11－2	幸区堀川町72－1(ラゾーナ川崎プラザ5階)	幸区大宮町1310	中原区小杉町3－600コスギサードアベニュー4階	中原区木月祇園町2－2
建築年月日	昭和55年3月31日(築42年)	平成18年8月31日(築16年)	平成15年12月13日(築18年)	令和2年6月24日(築2年)	平成6年6月30日(築28年)
定員(客席数)	840席(固定)	200席(スタッキングチェア)	1,997席(固定)	200席(スタッキングチェア)	264席(可動式)
設置目的 (施策上の位置付け)	市民のために、実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行ない、もって <u>市民の教養の向上を図る</u> ため。	市民の参加と文化芸術活動団体等との協働・連携により、高齢者や障害のある方等、誰もが気軽に文化芸術に触れ、より多くの市民が文化芸術の楽しさを享受し、本市に愛着と誇りを持ち、創造的で人間らしく感性豊かに暮らせる地域づくりを進める。	<u>音楽の鑑賞の機会の提供、音楽活動の振興</u> 等を図り、もって <u>市民文化の発展に寄与</u> するため。	地域コミュニティの中核を担う重要な組織であり、行政との協働のパートナーである町内会・自治会の活動を支援することにより、市民が相互に協力しながら暮らしやすい地域社会づくりを進める。	<u>市民の国際理解を増進</u> するとともに、 <u>国際的な文化交流及び市民交流を促進</u> することにより相互理解を深め、もって <u>市民の文化の向上及び国際友好親善の発展</u> に寄与するため。
主な利用用途 (実績)	●楽器演奏・合唱 ●会議・研修・講演会等	●演劇・ミュージカル	●楽器演奏・合唱	●楽器演奏・合唱 ●会議・研修・講演会等	●楽器演奏・合唱 ●ダンス

	中原市民館	川崎市総合福祉センター	川崎市コンベンションホール	川崎市民プラザ	高津市民館
ホール内観					
所在地	中原区新丸子東3－1100－12パークシティ武蔵小杉ミッドスカイタワー1・2階	中原区上小田中6－22－5	中原区小杉町2－276－1	高津区新作1－19－1	高津区溝口1－4－1
建築年月日	平成21年3月31日(築13年)	平成2年3月30日(築32年)	平成29年12月7日(築4年)	昭和54年1月31日(築43年)	平成9年9月12日(築24年)
定員(客席数)	375席(可動式・スタッキングチェア)	923席(固定)	960席(スタッキングチェア)	489席(固定)	600席(固定＋可動) スタッキングチェアで＋100席増設可
設置目的 (施策上の位置付け)	市民のために、実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行ない、もって <u>市民の教養の向上を図る</u> ため。	福祉に関する情報の収集及び提供等を行うとともに、 <u>市民による福祉活動を支援</u> することにより、 <u>市民の主体的な活動による地域福祉の推進</u> を図り、もって <u>市民の福祉の増進に寄与</u> するため。	<u>企業、研究機関、市民その他の多様な主体が交流する機会を創出</u> することにより、これらの者の間における連携を促進し、もって <u>地域経済の活性化その他の地域の活力の向上に寄与</u> するため。	<u>市民の健康の増進及び文化の振興を図る</u> とともに、市民相互の交流の機会を提供し、もって <u>市民の福祉の向上に寄与</u> するため。	市民のために、実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行ない、もって <u>市民の教養の向上を図る</u> ため。
主な利用用途 (実績)	●ダンス ●楽器演奏・合唱	●楽器演奏・合唱 ●会議・研修・講演会等	●会議・研修・講演会等	●楽器演奏・合唱 ●バレエ	●楽器演奏・合唱 ●会議・研修・講演会等

	男女共同参画センター	宮前市民館	多摩市民館	麻生市民館	アートセンター
ホール内観					
所在地	高津区溝口2-20-1	宮前区宮前平2-20-4	多摩区登戸1775-1	麻生区万福寺1-5-2	麻生区万福寺6-7-1
建築年月日	昭和49年3月31日（築48年）	昭和59年11月30日（築37年）	平成8年9月30日（築25年）	昭和55年3月31日（築42年）	平成19年10月10日（築14年）
定員（客席数）	850席（固定）	910席（固定）	908席（固定）	1,010席（固定）	195席（固定）
設置目的 （施策上の位置付け）	男女が社会の対等な構成員として、あらゆる分野における活動に参画する <u>男女共同参画社会の形成に寄与</u> するため。 <u>青少年の主体的な舞台芸術活動の促進</u> に寄与するため。	市民のために、実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行ない、もって <u>市民の教養の向上を図る</u> ため。	市民のために、実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行ない、もって <u>市民の教養の向上を図る</u> ため。	市民のために、実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行ない、もって <u>市民の教養の向上を図る</u> ため。	<u>芸術文化の創造、発信及び交流を促進</u> するとともに、 <u>芸術文化の鑑賞の機会を提供</u> し、もって <u>市民の芸術文化の発展に寄与</u> するため。
主な利用用途 （実績）	●楽器演奏・合唱 ●太鼓練習	●楽器演奏・合唱 ●バレエ	●楽器演奏・合唱 ●バレエ	●楽器演奏・合唱 ●会議・研修・講演会等	●演劇・ミュージカル

（3）各ホールの利用用途別利用割合（平成28年度～令和2年度）

●ほとんどの施設において、「楽器演奏・合唱」の用途での利用が上位となっています。

●川崎能楽堂における「日本舞踊・能」、ラゾーナ川崎プラザソルやアートセンターにおける「演劇・ミュージカル」、コンベンションホールにおける「会議・研修・講演会等」の利用率に見られるように「楽器演奏・合唱」以外の特定用途の利用率が突出している施設がありますが、ほとんどの施設では「楽器演奏・合唱」を中心に多目的な利用が進んでいます。

	利用用途別利用割合（休館日や保守点検日等を除き、利用のあったコマ数全体のうちの各利用用途で使したコマ数の割合）													
	楽器演奏・合唱	会議・研修・講演会等	展示会	演劇・ミュージカル	ダンス	バレエ	表彰式	健康診断	日本舞踊・能	カラオケ	映画会	幼稚園等の生活発表会	不明	その他
川崎市立労働会館	27.5%	31.3%	0.0%	2.4%	4.4%	1.4%	2.9%	0.0%	15.8%	0.0%	1.4%	7.4%	0.8%	4.7%
スポーツ・文化総合センター	47.3%	13.1%	0.8%	10.7%	4.8%	8.1%	2.1%	0.0%	3.7%	0.3%	0.2%	0.7%	1.3%	7.0%
川崎能楽堂	9.7%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	86.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	1.3%
川崎市産業振興会館	22.6%	54.9%	1.3%	1.5%	1.6%	0.0%	2.6%	0.0%	0.1%	0.4%	0.4%	1.0%	1.4%	12.1%
幸市民館	34.0%	15.4%	0.0%	16.3%	3.2%	2.9%	1.3%	3.6%	5.1%	0.0%	0.7%	4.1%	1.4%	12.0%
ラゾーナ川崎プラザソル	10.2%	6.0%	5.5%	57.7%	7.8%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.7%	3.6%	7.4%
川崎シンフォニーホール	96.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.1%	0.1%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	2.1%
川崎市総合自治会館	16.3%	45.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	6.3%	27.5%
川崎市国際交流センター	30.3%	15.9%	0.0%	5.3%	22.2%	16.7%	0.9%	0.0%	0.3%	0.0%	2.2%	1.6%	1.5%	3.1%
中原市民館	20.9%	21.0%	0.0%	5.5%	36.0%	0.2%	1.2%	0.0%	3.1%	0.7%	0.3%	1.8%	1.2%	8.2%
川崎市総合福祉センター	25.2%	23.4%	0.0%	10.5%	5.2%	11.9%	4.1%	0.0%	2.7%	1.3%	2.5%	6.8%	1.6%	4.7%
川崎市コンベンションホール	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
川崎市民プラザ	50.7%	8.3%	0.0%	10.2%	9.4%	4.2%	1.5%	5.7%	0.6%	0.3%	1.1%	3.2%	2.2%	2.8%
高津市民館	40.7%	34.3%	2.4%	3.4%	4.2%	0.3%	1.4%	0.1%	2.1%	0.0%	1.8%	0.3%	1.6%	7.4%
川崎市男女共同参画センター	33.8%	2.7%	0.1%	3.8%	4.3%	0.9%	0.2%	8.6%	1.1%	0.9%	0.5%	3.9%	6.4%	32.8%
宮前市民館	28.3%	10.9%	0.0%	6.1%	6.9%	15.7%	0.2%	9.4%	1.2%	0.1%	1.2%	4.3%	4.3%	11.3%
多摩市民館	29.5%	13.2%	0.0%	10.0%	5.2%	21.4%	0.9%	4.5%	1.0%	0.1%	0.9%	1.8%	0.6%	11.1%
麻生市民館	41.8%	15.7%	0.0%	8.1%	4.5%	6.7%	0.6%	3.8%	2.1%	0.5%	1.0%	2.1%	3.0%	10.2%
川崎市アートセンター	5.7%	0.6%	0.0%	73.8%	5.8%	2.5%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	4.1%	0.4%	0.0%	6.1%

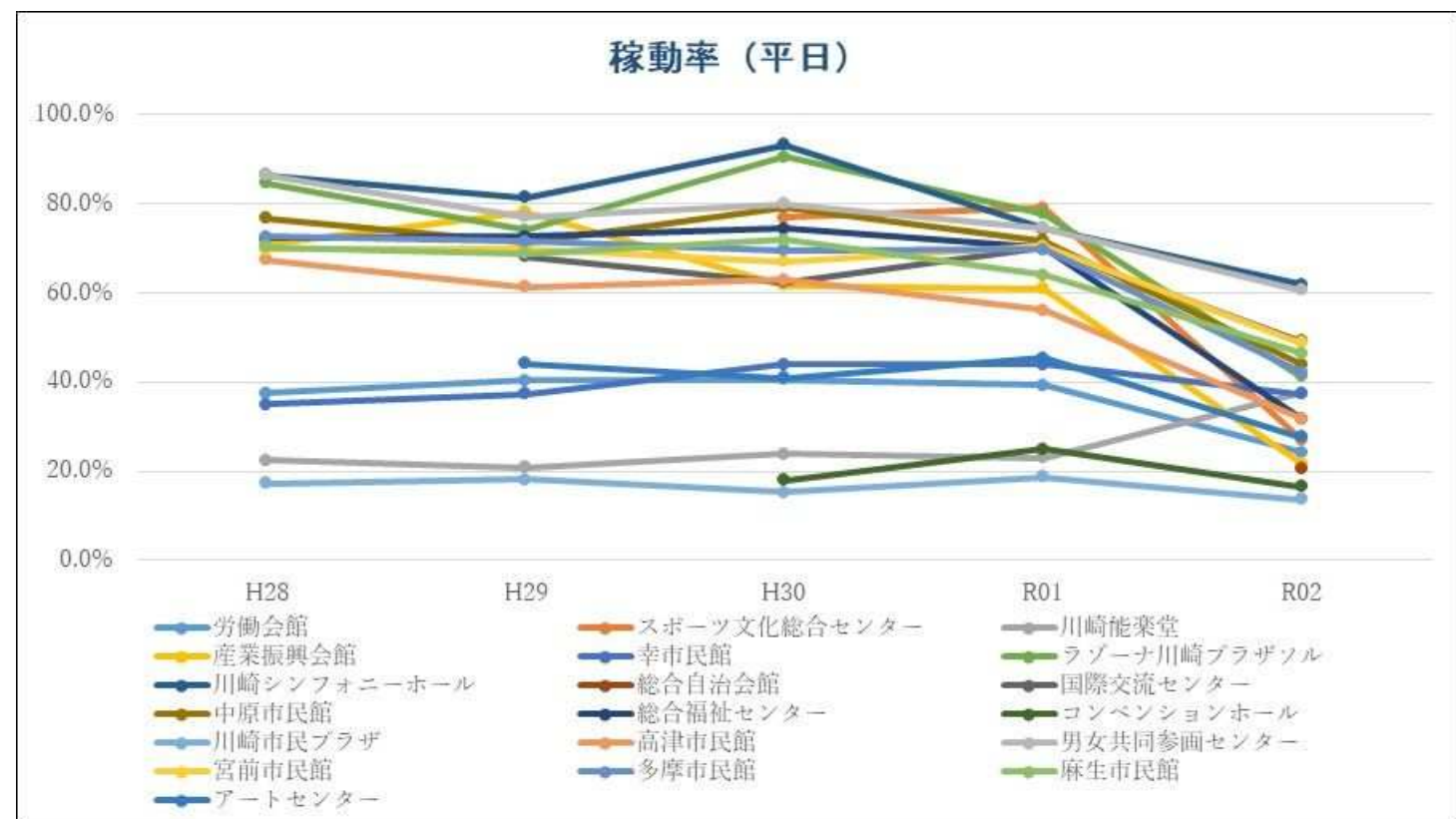
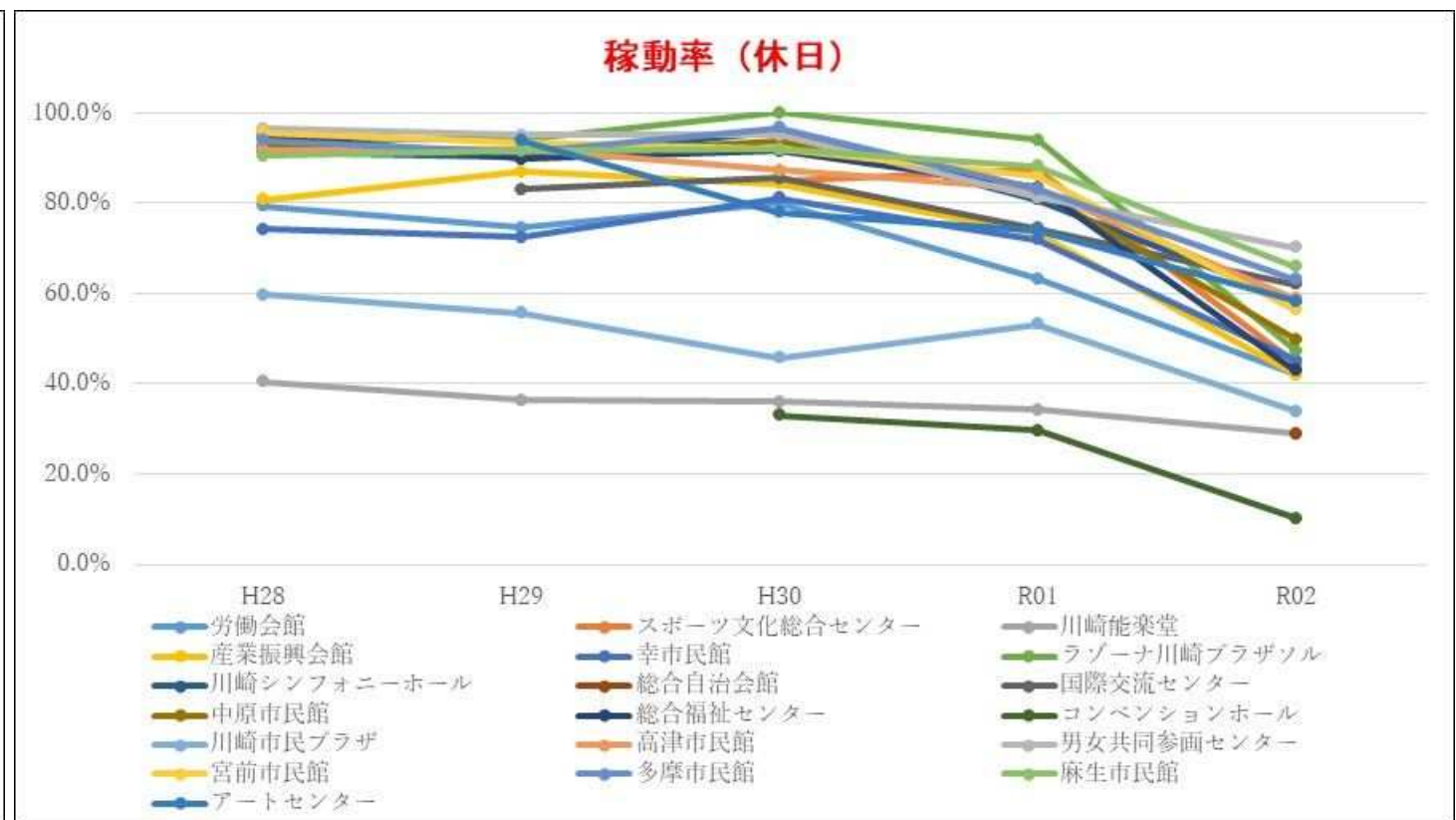
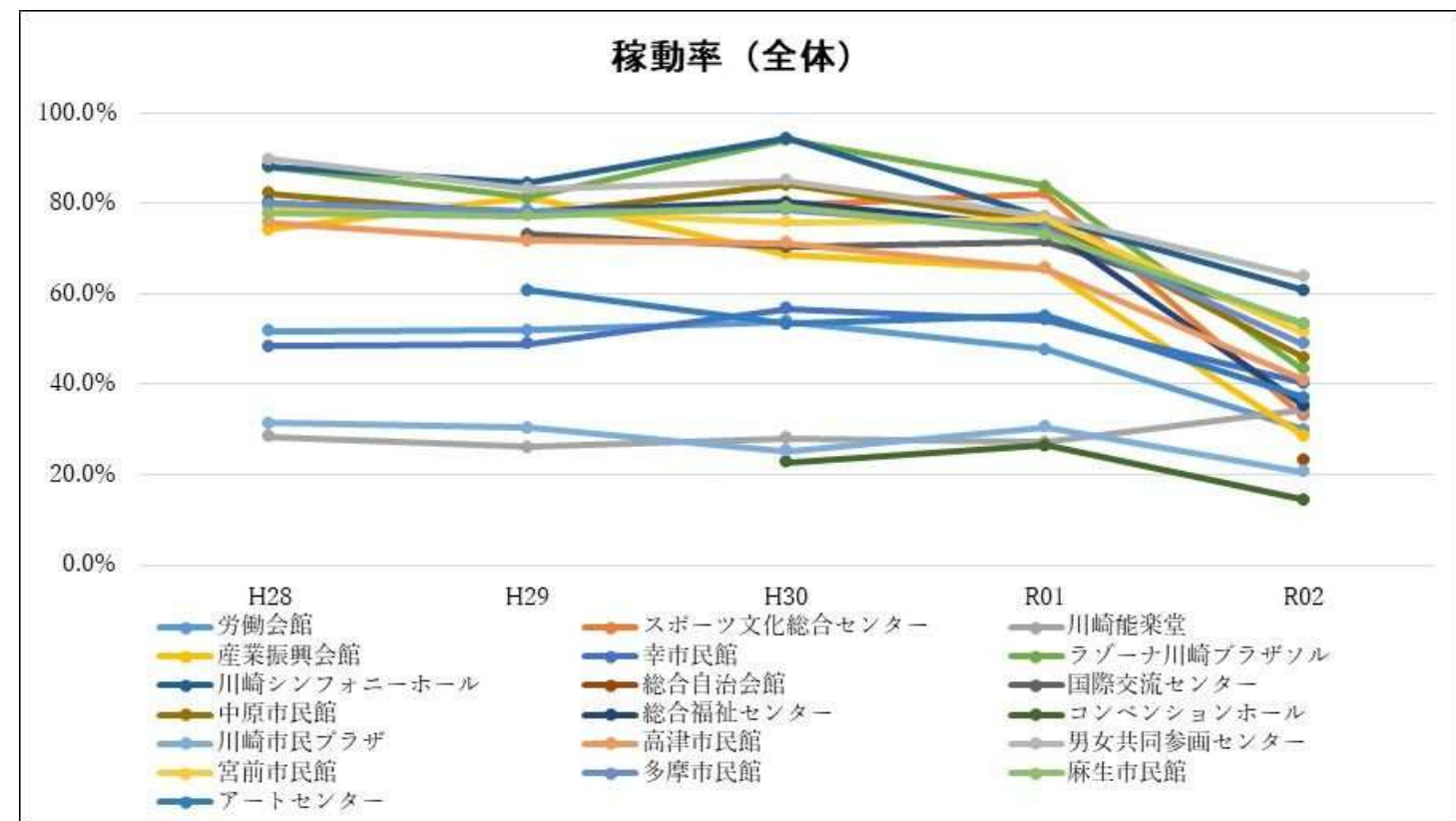
※利用割合は、保守点検日等を除き、利用のあったコマ数全体のうちの各利用用途で使したコマ数の割合により算出

※本データは施設が保管する利用者の申請書類（一部欠損あり）を基に集計している。

※利用申請書に記載された利用目的のみからでは利用用途が明らかではない場合であっても、利用団体名や利用機材等の情報から利用用途を類推しているものがある（利用者名「劇団〇〇」⇒用途「演劇」など）。

(4) 各ホールの稼働率の状況（平成 28 年度～令和 2 年度）

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度の稼働率が著しく低下していることが窺えるが、従前（新型コロナウイルス感染症拡大前）から稼働率が低い施設も存在しています。
- 平日と比べると休日の稼働率の方が高い傾向にあるが、休日の稼働率が 40%を下回っている施設もあります。
- 平日では、約 3 割の施設（6 施設）が稼働率 50%を下回っています。



施設別稼働率の状況					
施設名	H28	H29	H30	R1	R2
労働会館	51.7%	51.9%	53.9%	47.7%	30.0%
スポーツ文化総合センター	—	—	79.6%	82.1%	33.0%
川崎能楽堂	28.4%	26.0%	28.1%	27.1%	34.2%
産業振興会館	74.3%	81.3%	68.7%	65.5%	28.6%
幸市民館	48.3%	48.9%	56.8%	54.3%	40.3%
ラゾーナ川崎プラザソル	88.0%	81.3%	94.0%	83.8%	43.2%
川崎シンフォニーホール	88.3%	84.5%	94.3%	76.8%	60.7%
総合自治会館	—	—	—	—	23.3%
国際交流センター	データ無し	73.1%	70.2%	71.6%	53.3%
中原市民館	82.1%	77.6%	84.1%	75.6%	45.9%
総合福祉センター	80.0%	78.2%	80.2%	74.7%	35.4%
コンベンションホール	—	—	22.7%	26.5%	14.4%
川崎市民プラザ	31.4%	30.4%	25.2%	30.5%	20.5%
高津市民館	75.7%	71.7%	71.2%	65.5%	40.9%
男女共同参画センター	89.7%	83.2%	85.0%	77.0%	63.7%
宮前市民館	78.8%	78.2%	75.9%	76.4%	51.3%
多摩市民館	79.8%	78.2%	78.7%	74.5%	48.8%
麻生市民館	77.7%	77.2%	79.1%	73.1%	53.4%
アートセンター	データ無し	60.7%	53.4%	55.2%	37.0%

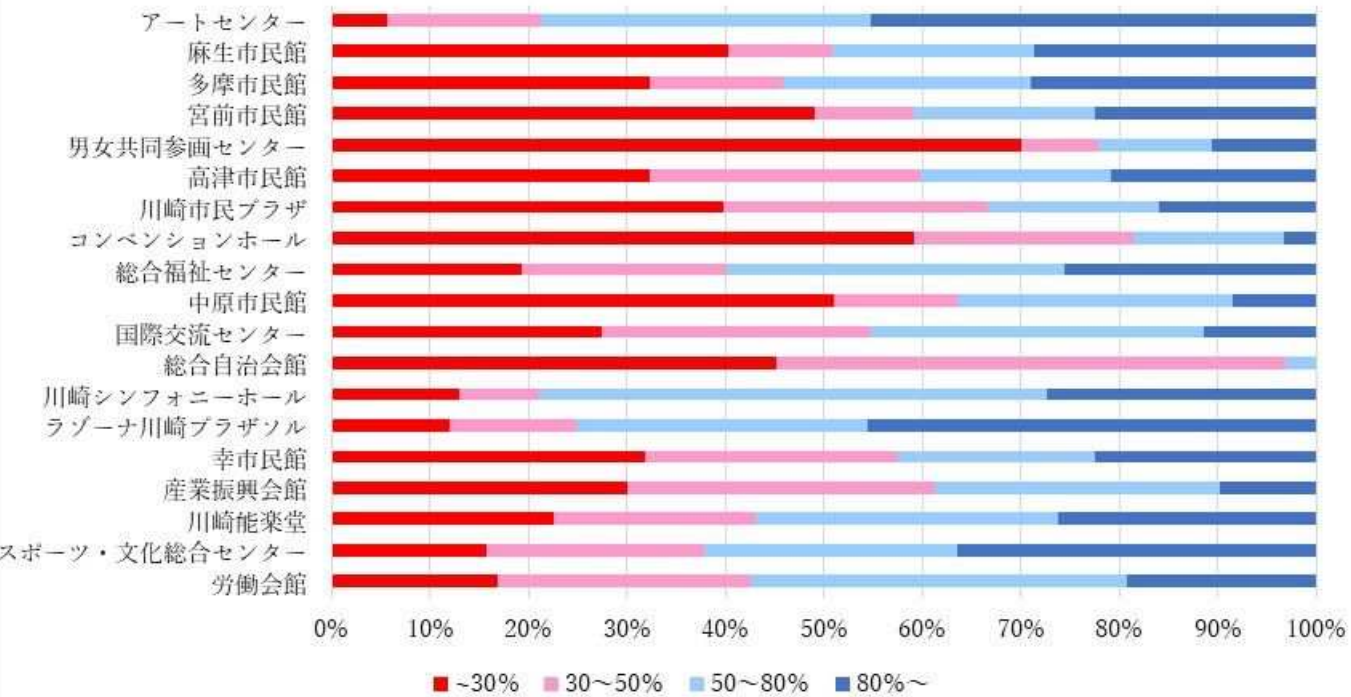
(5) 各ホールの客席利用状況（平成 28 年度～平成 30 年度）

- 多くの施設で本番利用率（全体の稼動コマ数に対する、本番利用と本番に向けた準備等で使用したコマ数の割合）が高い傾向にあるが、半数以上のコマが練習利用となっている施設もあります。
- 多くの施設（19施設中11施設）で客席数の5割以下の利用が大半を占めています。
- 客席を利用しない練習利用は全体の約 20%であり、300 名以下での利用（練習及び準備での利用を含む）が 70%以上となっています。
- 1000 人超の客席数を使用する用途の約 80%が「楽器演奏・合唱」となっています。

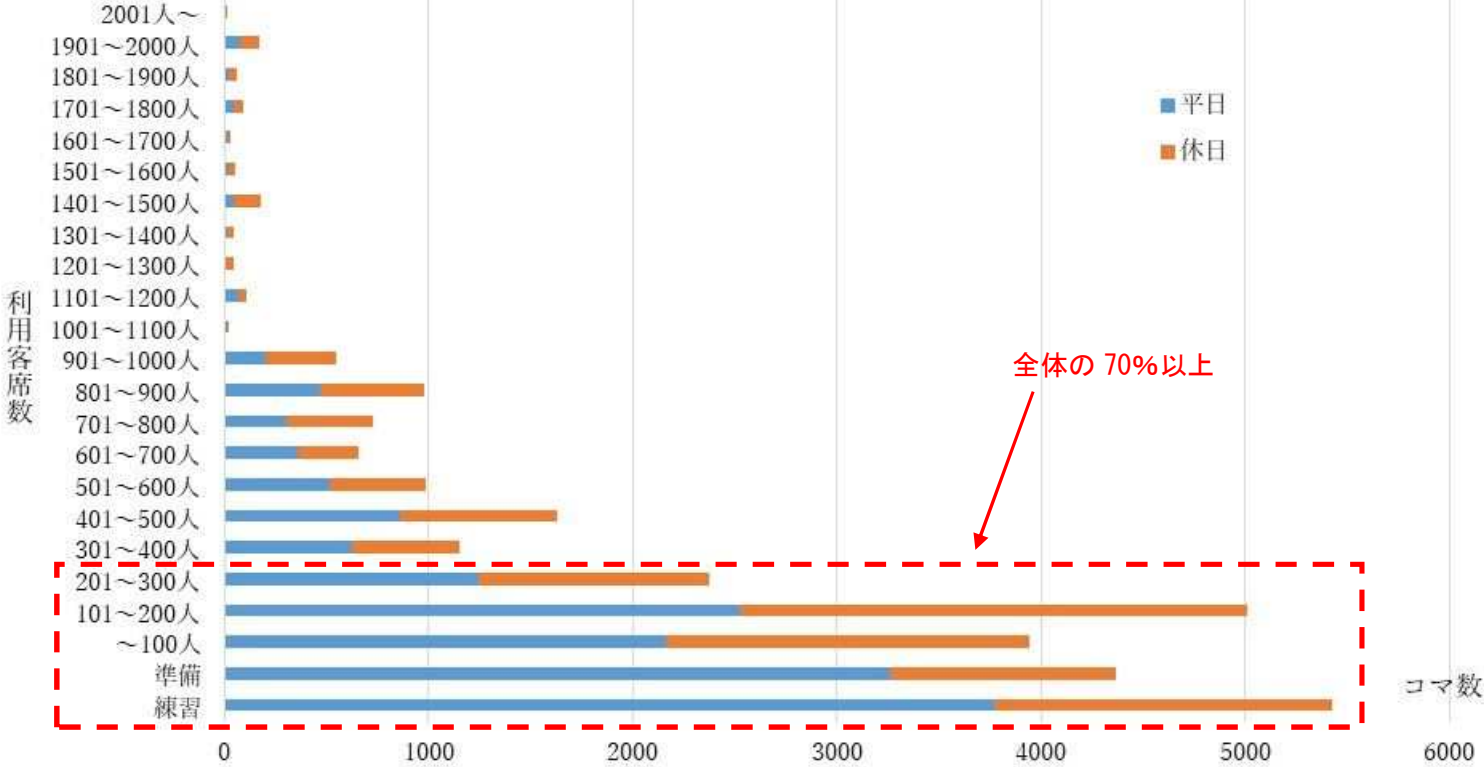
本番利用率

施設名	H28	H29	H30	R1	R2
労働会館	83.2%	80.0%	83.3%	83.2%	87.1%
スポーツ・文化総合センター	—	—	97.2%	90.4%	83.9%
川崎能楽堂	33.2%	44.9%	37.4%	39.4%	34.9%
産業振興会館	90.4%	90.3%	90.5%	89.7%	63.1%
幸市民館	66.7%	75.8%	73.0%	68.4%	58.2%
ラゾーナ川崎プラザソル	93.2%	91.3%	93.6%	98.1%	85.0%
川崎シンフォニーホール	89.4%	86.5%	85.3%	86.3%	82.9%
総合自治会館	—	—	—	—	60.0%
国際交流センター	データ無し	36.5%	45.9%	42.9%	39.4%
中原市民館	68.0%	74.1%	70.8%	69.0%	72.4%
総合福祉センター	93.5%	96.1%	88.4%	94.4%	93.1%
コンベンションホール	—	—	100.0%	100.0%	100.0%
川崎市民プラザ	69.0%	71.3%	55.5%	64.1%	79.8%
高津市民館	93.1%	95.4%	93.6%	92.3%	90.6%
男女共同参画センター	38.6%	42.7%	40.7%	46.1%	42.4%
宮前市民館	76.9%	83.7%	85.3%	84.0%	79.6%
多摩市民館	85.2%	87.5%	83.2%	86.6%	82.2%
麻生市民館	82.3%	82.4%	83.9%	82.2%	80.8%
アートセンター	データ無し	96.9%	97.8%	99.8%	84.8%

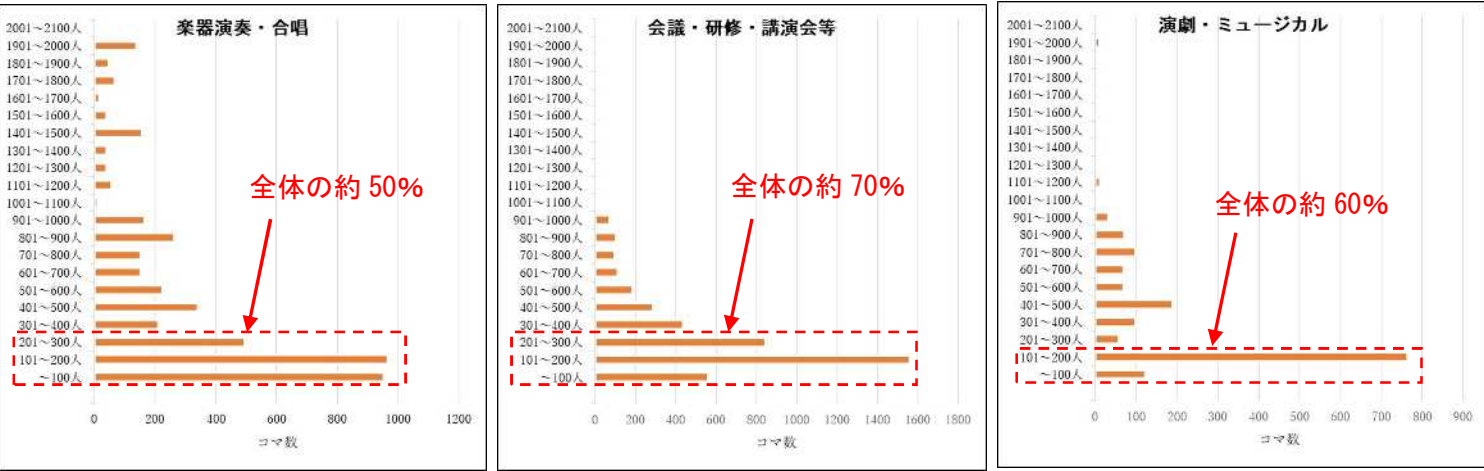
本番利用時の客席利用率（H28～H30）



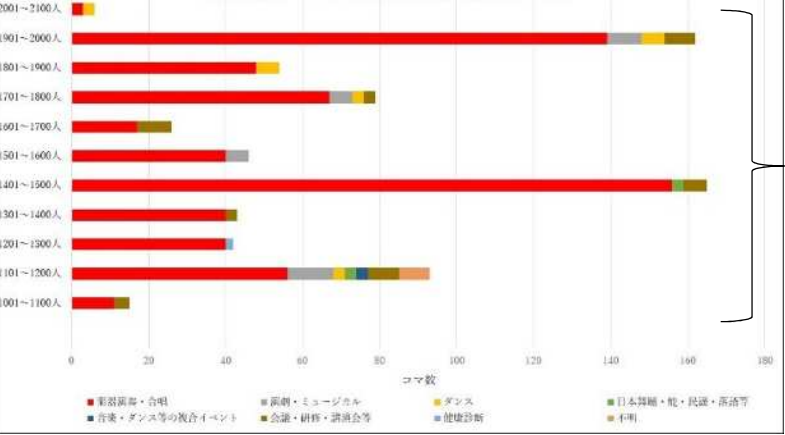
利用客席数（H28～H30）



主な利用用途における利用客席数の状況等（H28～H30）



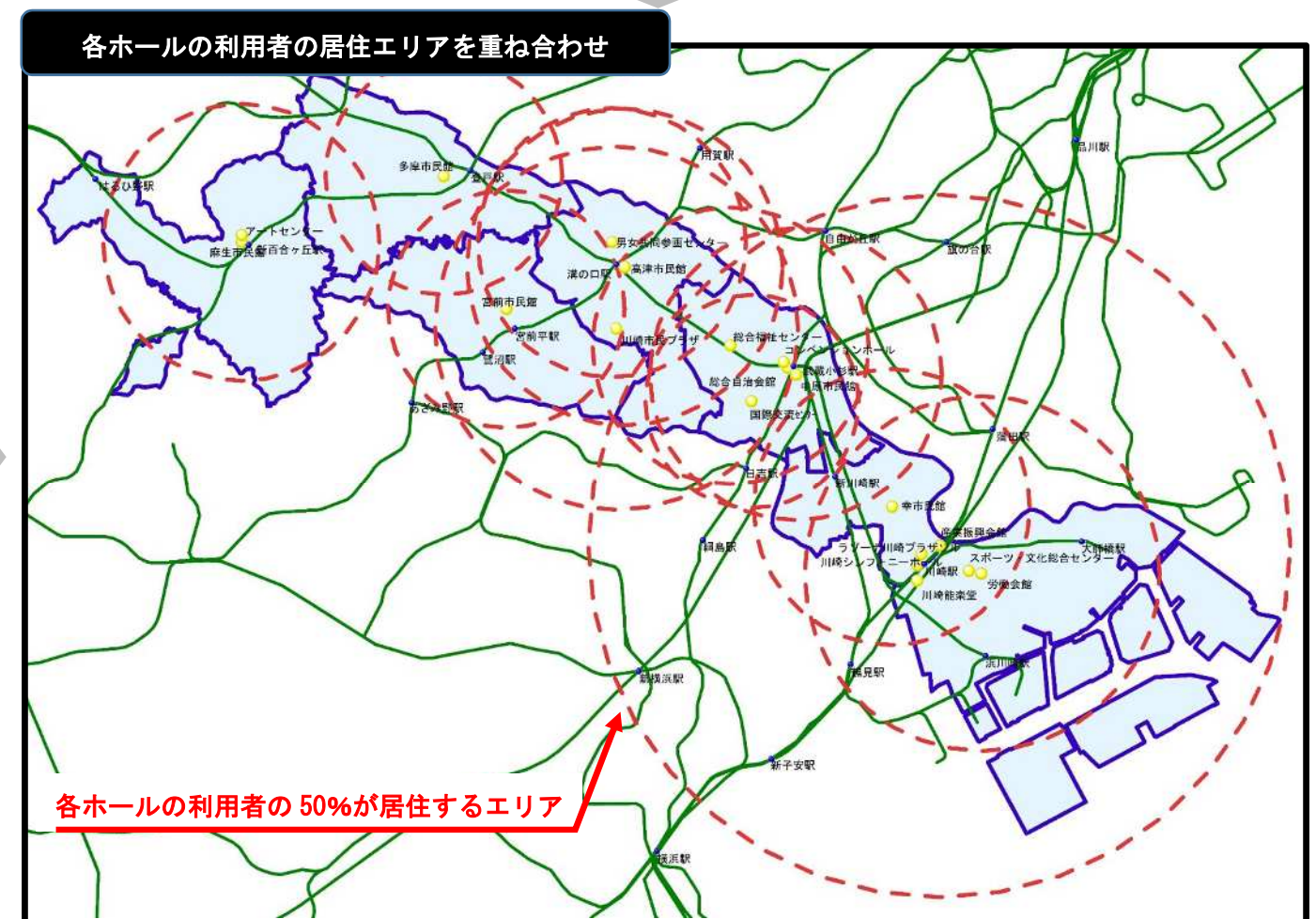
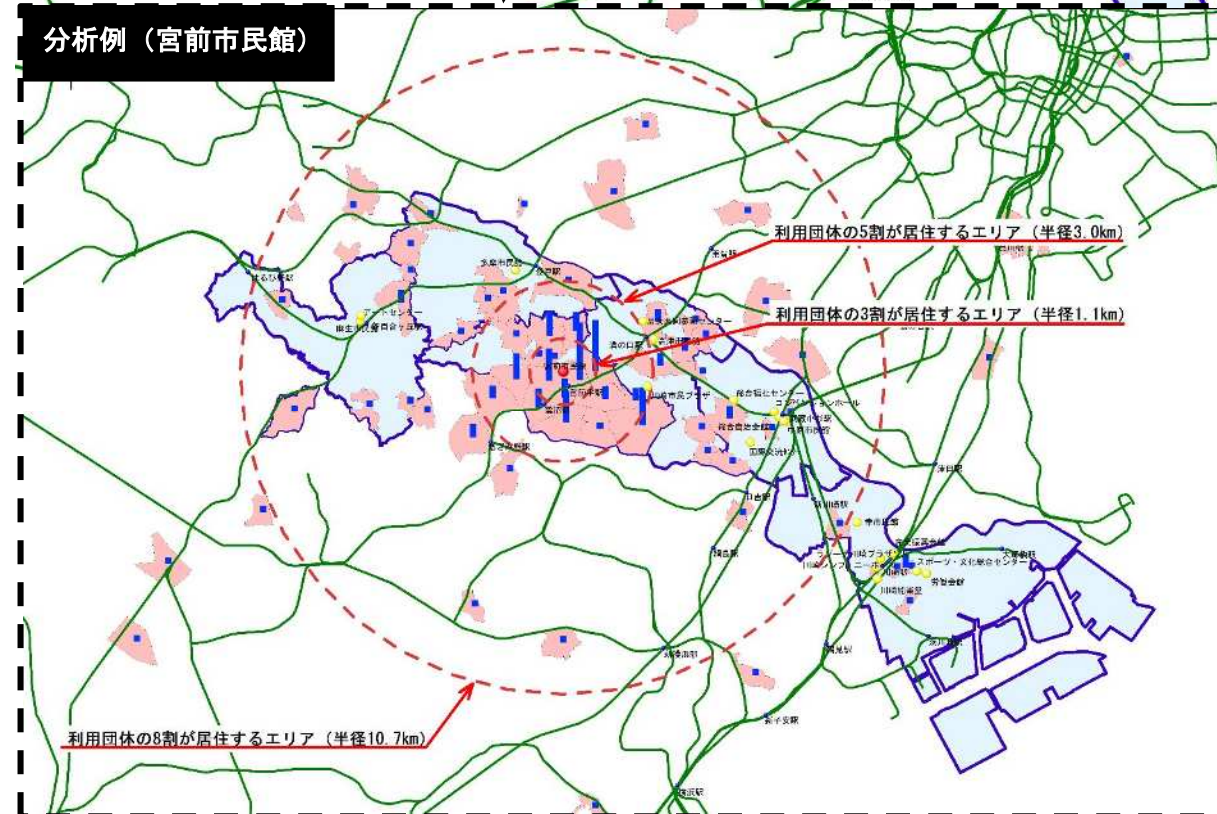
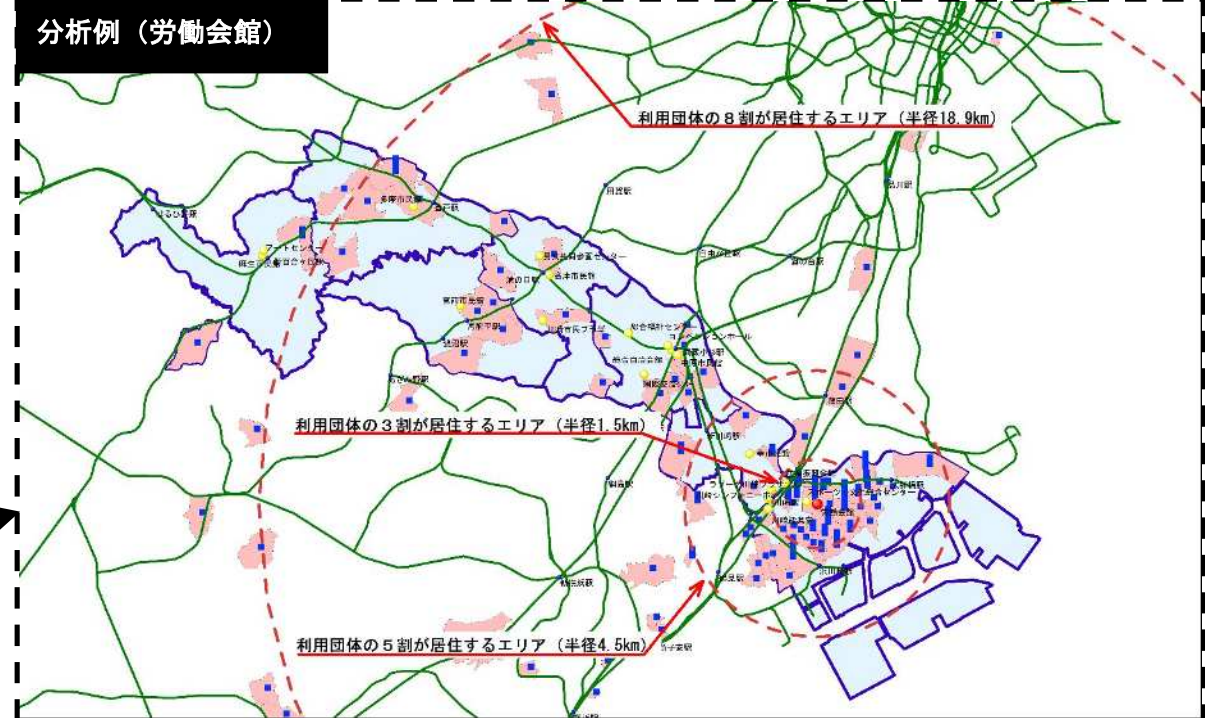
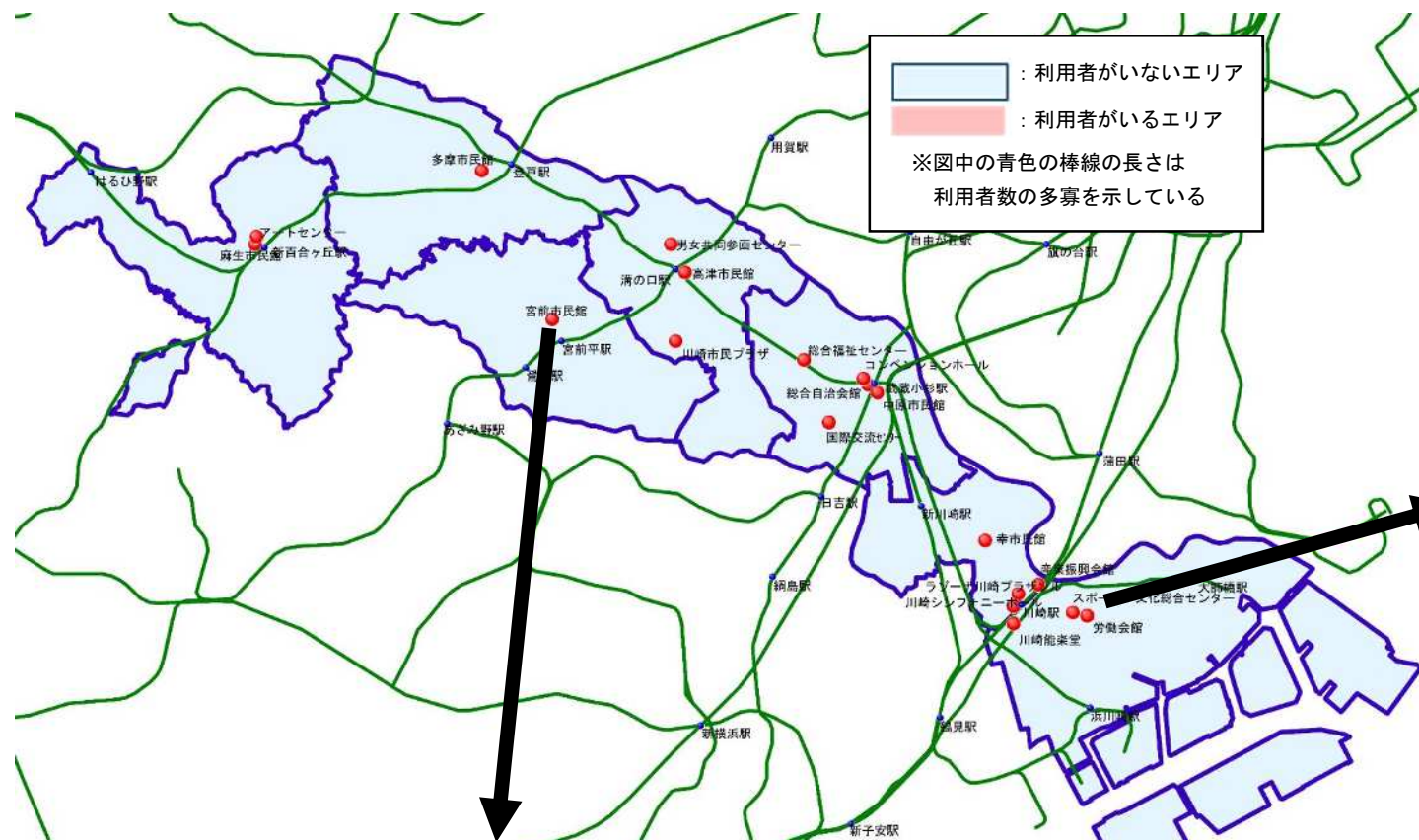
利用客席数1000人超の利用用途別利用客席数の状況



利用客席数 1000 人超の利用用途のうち、
約 80%が「楽器演奏・合唱」となっている。
（次点は、「会議・研修・講習会等」の約 6%）

(6) 各ホール利用者の居住エリアと周辺のホールの配置状況

- 公共施設予約システム（ふれあいネット）により予約管理を行っているホールについて、利用者（利用団体の代表者）の居住エリア（郵便番号情報から把握可能な町丁目単位）の状況を分析しました。
- ほとんどのホールでは、当該ホールが立地する区または隣接区に、利用者の半数以上が居住しています（次ページ参照）。
- 居住エリアと周辺のホール位置を踏まえると、利用用途によっては他の複数の施設へ容易にアクセスできるエリアが市域全体に広がっている可能性があります（次ページ参照）。
- 川崎区、中原区、高津区においては、比較的公共ホールが密集しているエリアがありますが、多摩区、宮前区、麻生区においては周辺に代替するホールが無いエリアも存在しています。



各施設の利用者の居住エリアの特徴等			
施設名	利用者の５割が居住する 当該ホールからの距離	利用者の居住エリアの特徴	半径２km 圏内の本市の公共ホール (カッコ内は当該ホールからの距離)
労働会館	半径４５００m圏内	●利用者の５割は当該ホールから半径４.５km圏内に居住している。利用者の約４０％は川崎区に居住しており、 地域での利用が多い ことが窺える。 ●隣接する横浜市鶴見区の居住者も一定程度利用している。	●スポーツ・文化総合センター（３３０m）／●産業振興会館（１２８０m） ●ラゾーナ川崎プラザソル（１６００m）／●川崎能楽堂（１６５０m） ●川崎シンフォニーホール（１６６０m）
産業振興会館	半径８９００m圏内	●利用者の５割の居住圏域は、当該ホールから半径８.９kmと広く、 他ホールと比して利用者の居住エリアの分布が広い 。立地する川崎区の利用者がやや多いが突出したものではなく、 市域のみならず、隣接他都市の居住者を含めて広く利用されている ことが窺える。 ●隣接する横浜市鶴見区の居住者も一定程度利用している。	●ラゾーナ川崎プラザソル（５００m） ●川崎シンフォニーホール（７５０m） ●スポーツ・文化総合センター（９８０m） ●川崎能楽堂（１０４０m） ●労働会館（１２８０m）／●幸市民館（１５７０m）
幸市民館	半径３５００m圏内	●利用者の５割は当該ホールから半径３.５km圏内に居住している。利用者の約３０％は幸区に居住し、約６０％は幸区と隣接区（川崎・中原）の居住者であることから、 地域での利用および隣接区の居住者の利用が多い ことが窺える。	●ラゾーナ川崎プラザソル（１４２０m） ●産業振興会館（１５７０m） ●川崎シンフォニーホール（１６２０m）／●川崎能楽堂（１９８０m）
国際交流センター	半径２７００m圏内	●利用者の５割は当該ホールから半径２.７km圏内の居住している。利用者の約４０％は中原区に居住しており、 地域での利用が多い ことが窺える。 ●隣接する横浜市港北区の居住者も一定程度利用している。	●総合自治会館（１２４０m） ●コンベンションホール（１２８０m） ●中原市民館（１３１０m）／●総合福祉センター（１５１０m）
中原市民館	半径３７００m圏内	●利用者の５割は当該ホールから半径３.７km圏内に居住している。利用者の約３０％は中原区に居住しているが、川崎区、幸区、高津区、宮前区の居住者も一定程度利用していることから、 地域での利用が中心であるものの、他の市民館と比して市域全体での利用が多い ことが窺える。	●総合自治会館（２５０m） ●コンベンションホール（４５０m） ●国際交流センター（１３１０m） ●総合福祉センター（１８００m）
総合福祉センター	半径３５００m圏内	●利用者の５割は当該ホールから半径３.５km圏内に居住している。利用者の約３０％は中原区に居住しているが、隣接する高津区や川崎区の居住者も一定程度利用していることから、 地域での利用が中心であるものの、他のホールと比して市域全体での利用が多い ことが窺える。	●コンベンションホール（１４００m） ●国際交流センター（１５１０m） ●総合自治会館（１５６０m） ●中原市民館（１８００m）
川崎市民プラザ	半径４６００m圏内	●利用者の５割は当該ホールから半径４.６km圏内に居住している。突出して利用者が多い居住エリアはないものの、利用者の約６０％は立地する高津区と隣接区（中原・宮前・多摩）の居住者であることから、 地域および隣接区の居住者の利用が多い ことが窺える。 ●東京都区部や横浜市の居住者も一定程度利用している。	●高津市民館（１５６０m）
高津市民館	半径４０００m圏内	●利用者の５割は当該ホールから半径４.０km圏内に居住している。立地する高津区の利用者がやや多いが突出したものではなく、 他の市民館ホールと比して、市域全体での利用が多い ことが窺える。	●男女共同参画センター（７００m） ●川崎市民プラザ（１５６０m）
男女共同参画センター	半径３４００m圏内	●利用者の５割は当該ホールから半径３.４km圏内に居住している。利用者の約４０％弱は高津区に居住し、利用者の約８０％弱は高津区と隣接区（中原・宮前・多摩）の居住者であることから、 地域での利用および隣接区の居住者の利用が多い ことが窺える。	●高津市民館（７００m）
宮前市民館	半径３０００m圏内	●利用者の５割は当該ホールから半径３.０km圏内に居住している。利用者の約４０％は宮前区に居住しており、 地域での利用が多い ことが窺える。	なし ※最も近いホールは川崎市民プラザ（２８３０m）
多摩市民館	半径３０００m圏内	●利用者の５割は当該ホールから半径３.０km圏内に居住している。利用者の約５０％弱は多摩区に居住しており、 地域での利用が多い ことが窺える。	なし ※最も近いホールは宮前市民館（３７２０m）
麻生市民館	半径３５００m圏内	●利用者の５割は当該ホールから半径３.５km圏内に居住している。利用者の約４０％強は麻生区に居住しており、 地域での利用が多い ことが窺える。	●アートセンター（１８０m）

(7) 各施設の収支状況

●市の収支としては、新築・改修関連の支出に加え管理・運営関連の支出がありますが、各年度の管理・運営収支だけを見ても、全ての施設で市の費用負担が必要な状況となっています。

●管理運営者の収支については、ほとんどの施設が、指定管理料や市からの補助がなければ運営が難しい状況となっています。

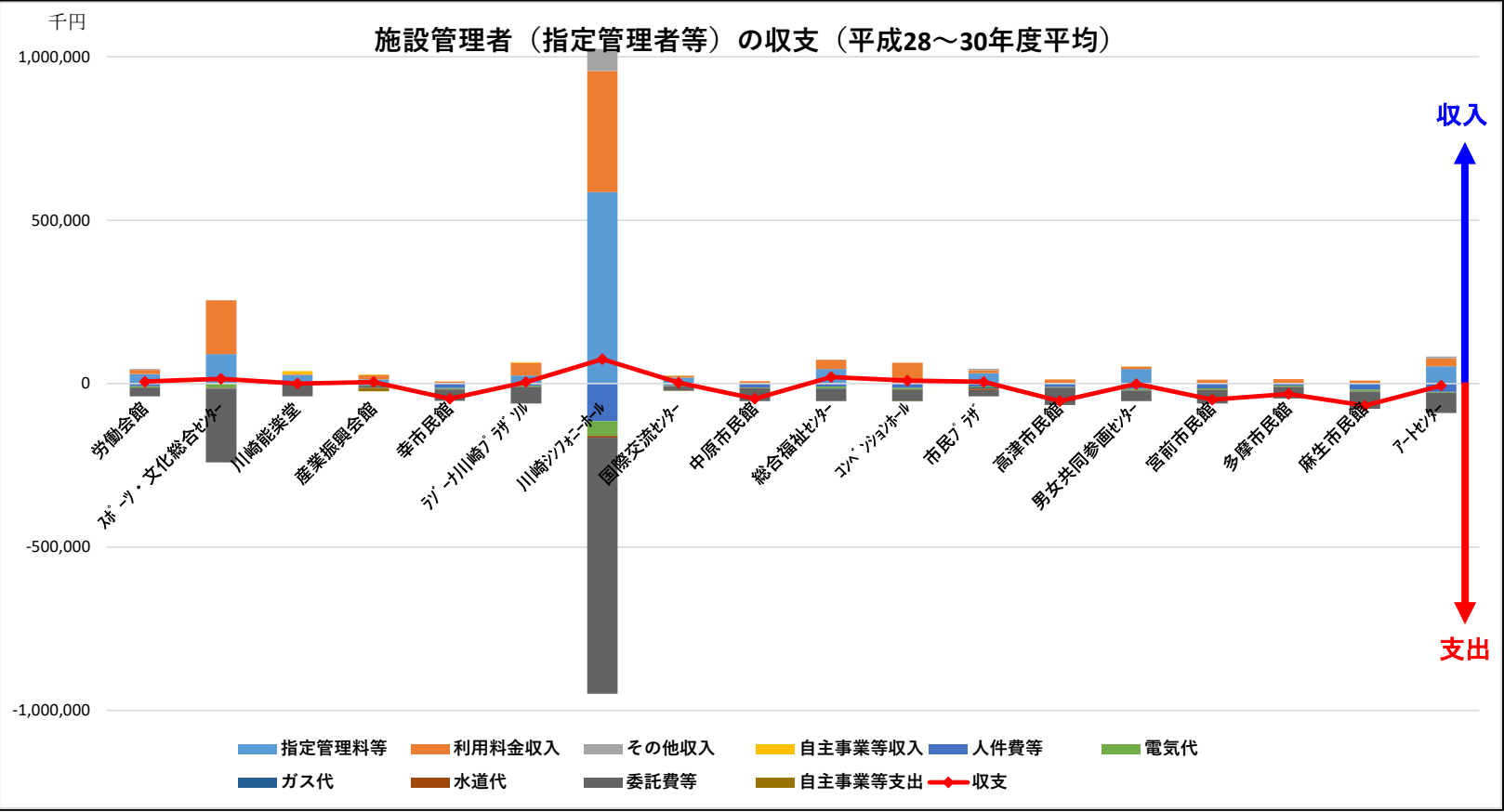
		労働会館	スポーツ・文化 総合センター	川崎能楽堂	産業振興会館	幸市民館	ラザーナ川崎 プラザソル	川崎シンフォニーホール	総合自治会館	国際交流センター	中原市民館
新築・改修関連	市の支出	262,661 千円	3,205,591 千円	42,870 千円	437,964 千円	714,512 千円	279,608 千円	15,610,389 千円	413,589 千円	595,349 千円	490,119 千円
	市の収入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管理・運営関連 (H28～H30 平均)	市の支出（年間）	29,349 千円	90,152 千円	25,941 千円	13,086 千円	52,358 千円	24,658 千円	586,509 千円	10,271 千円	18,370 千円	53,660 千円
	市の収入（年間）	—	—	—	—	6,426 千円	—	—	—	—	7,413 千円
		総合福祉センター	コンベンション ホール	川崎市民プラザ	高津市民館	男女共同 参画センター	宮前市民館	多摩市民館	麻生市民館	アートセンター	
新築・改修関連	市の支出	1,098,903 千円	814,103 千円	126,968 千円	934,384 千円	467,907 千円	432,064 千円	630,993 千円	1,021,128 千円	370,243 千円	
	市の収入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
管理・運営関連 (H28～H30 平均)	市の支出（年間）	44,237 千円	7,680 千円	31,777 千円	65,639 千円	44,303 千円	61,045 千円	45,267 千円	77,435 千円	53,410 千円	
	市の収入（年間）	—	6,985 千円	—	12,214 千円	—	11,973 千円	13,858 千円	9,779 千円	—	

※ホール以外の機能（会議室など）と複合した施設については、ホール部分とそれ以外で明確に区分できる支出・収入を除き、ホール部分（ホール専用ホワイエ、楽屋、制御室、ホール専用トイレ等を含む）とそれ以外の部分の面積割合により按分して算出した。

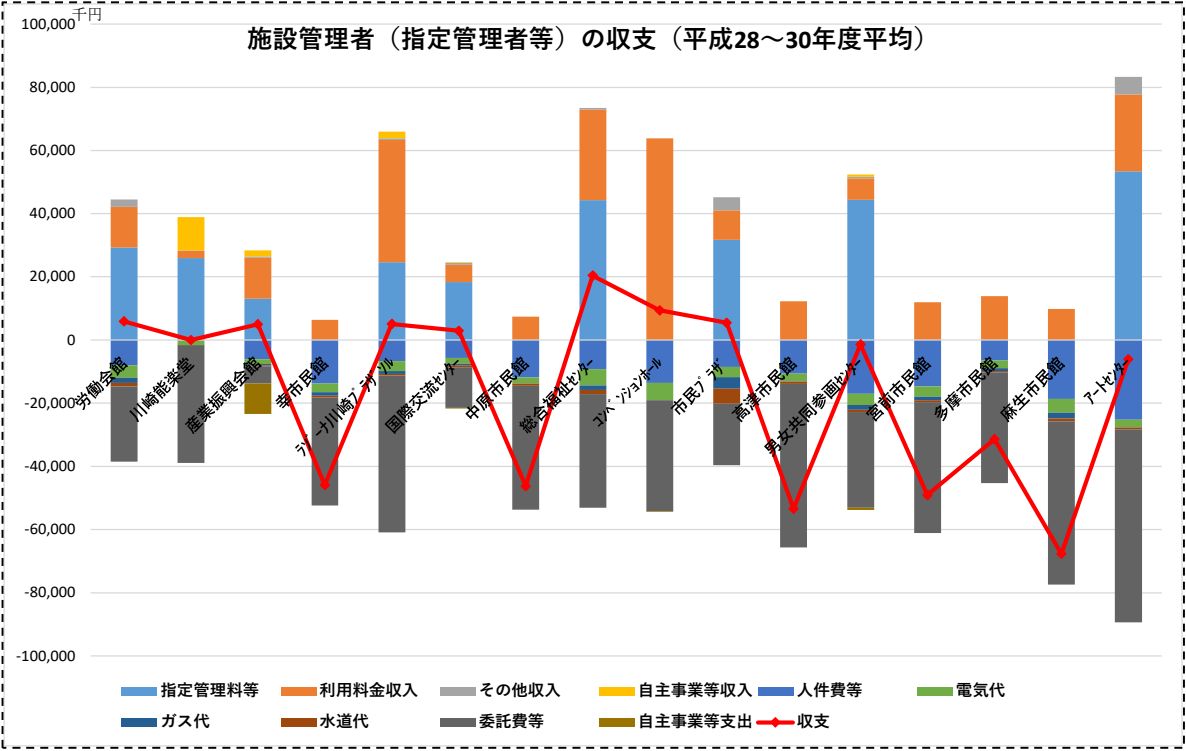
※按分にあたっての面積は、ホール部分が複数階層にわたり吹き抜けで設置されている場合があるため、見かけ上の面積ではなく、本市の建築確認申請時に想定される面積を使用した。

※スポーツ・文化総合センター（平成29年6月完成）とコンベンションホール（平成29年12月完成）の収支は平成30年度分のみ

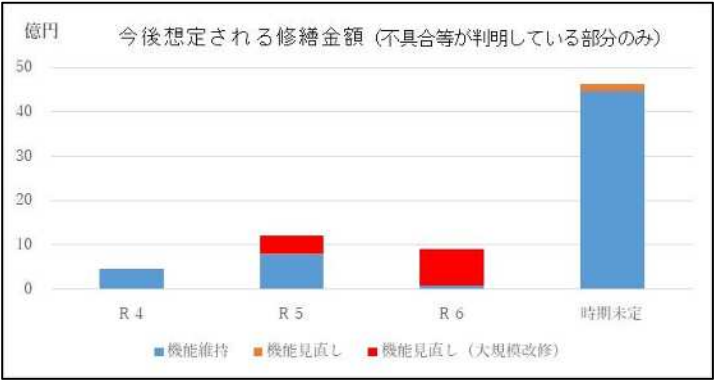
※総合自治会館（令和2年6月完成）の収支は令和2年8月～令和3年3月にて算出した。



川崎市スポーツ・文化総合センターと川崎シンフォニーホールを除いてグラフ拡大



（８）今後想定される主な修繕内容と将来的な修繕費用
今後想定される主な修繕内容（不具合等が判明している部分のみ）は下表のとおりです。
各年度とも５～10 億円程度の修繕費用が必要となる見込みですが、実施時期が未定となっている修繕が多く、それら修繕に要す費用は 40 億円以上となっています(右グラフ参照)。



施設名	改修目的	内容
川崎市立労働会館	機能見直し（大規模改修）	全面大規模リニューアル
川崎能楽堂	機能維持	舞台照明設備改修、舞台機構設備改修など
川崎市産業振興会館	機能維持	舞台機構設備改修など
幸市民館	機能維持	調光装置改修など
ラゾーナ川崎プラザソル	機能維持	舞台機構設備改修、舞台音響設備改修など
川崎市国際交流センター	機能維持	舞台音響設備改修など
中原市民館	機能維持	舞台機構設備改修、舞台照明設備改修など
川崎市総合福祉センター	機能維持・機能見直し	舞台設備改修、トイレ洋式化など
川崎市民プラザ	機能維持・機能見直し	舞台照明設備改修、トイレ洋式化など
高津市民館	機能維持・機能見直し	吊物ワイヤー更新、トイレ洋式化など
川崎市男女共同参画センター	機能維持・機能見直し	舞台照明設備改修、トイレ洋式化など
宮前市民館	機能維持	調光装置改修
多摩市民館	機能維持・機能見直し	舞台照明設備改修、トイレ洋式化など
麻生市民館	機能維持・機能見直し	特定天井改修、トイレ洋式化など
川崎市アートセンター	機能維持	舞台音響設備改修など

3. ホールの利用実態等を踏まえた課題整理【本編 P138～P145】

（１）利用用途に応じた設備について

多くの施設では楽器演奏やダンスなど多岐にわたる演目に利用されています。
ホール単体で捉えた場合には、多くの市民の利用機会を設ける観点で多目的な利用を促すことが有効であると考えられますが、多目的な利用を行うためには設備を網羅的に備える必要があり、それぞれに維持管理経費が必要となるとともに、ホールによっては利用頻度が少ない設備がある（施設管理者へのヒアリングによる）ことから、本市の公共ホール全体を俯瞰しつつ、各施設に必要な設備等を検証する必要があります（右表「舞台設備の例」参照）。

（２）稼働率について

多くの施設では稼働率は比較的高い状況となっていますが、稼働率が５０％に満たないなど、必ずしも効果的な活用ができていない施設があり、効果的な活用に向けた改善が必要となっています。

《平成 28～30 年度の平均稼働率が 50％を下回った施設》	
・川崎能楽堂	： 27.5％
・川崎コンベンションホール	： 27.4％
・川崎市民プラザ	： 29.7％

舞台設備の例

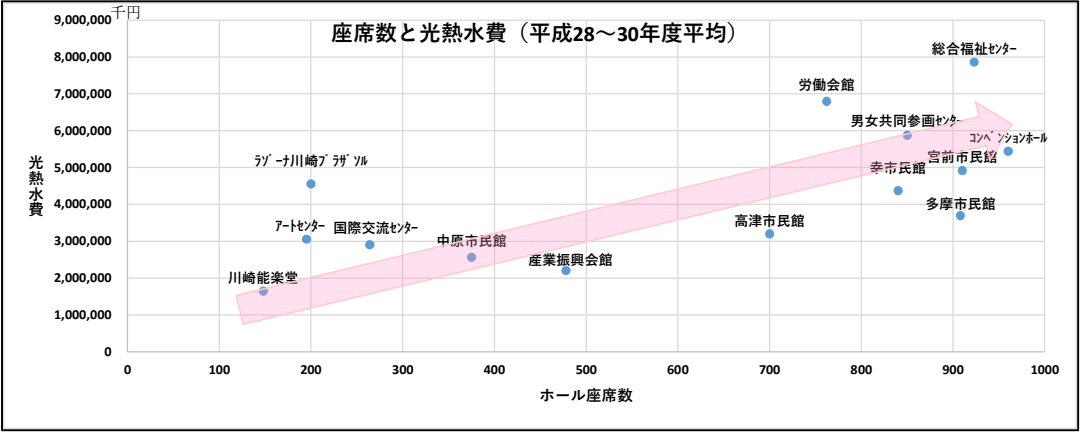
設備	音響反射板	所作台	松羽目
イメージ写真			
概要	演奏者の音声を客席へ向けて効率的に反射させるために使用される。	舞台の上に敷かれる台。桧の板で作られていて、足のすべりをよくするのと、足拍子の響きをよくするため等に使用される。	能舞台をまねて舞台の正面に老松を描いた舞台装置。
主な用途	ピアノ演奏など	日本舞踊、歌舞伎舞踊など	能、狂言、歌舞伎など
設備を持つホール	川崎市立労働会館 スポーツ・文化総合センター 川崎市産業振興会館 幸市民館 川崎市総合福祉センター 川崎市民プラザ 高津市民館 川崎市男女共同参画センター 宮前市民館 多摩市民館 麻生市民館	川崎市立労働会館 スポーツ・文化総合センター 幸市民館 中原市民館 川崎市総合福祉センター 川崎市民プラザ 高津市民館 宮前市民館 多摩市民館 麻生市民館	川崎市立労働会館 スポーツ・文化総合センター 川崎市総合福祉センター 川崎市民プラザ 宮前市民館 多摩市民館 麻生市民館
更新に係る概算金額	5,000～6,000 万円程度	2,000～3,000 万円程度	200～300 万円程度

（３）利用客席数について

本番利用時の利用客席数について、多くの施設（１９施設中１１施設）で定員の５割以下の利用が半数以上（利用コマ数ベース）となっています。

また、多くの施設では客席を利用する本番利用が多い傾向にありますが、客席を利用しない練習利用が半数以上を占める施設もあります。

利用客席数が少ない場合や客席を利用しない場合であっても、施設内の内装等（客席シート交換、壁のクロス補修、床の張り替えなど）の維持管理コストが生じるとともに、施設規模が大きいほど光熱水費等の支出が必要となることから、利用実態と利用施設のミスマッチを解消する必要があります。



（４）収支状況と今後想定される修繕コストについて

各施設の収支状況（管理運営経費だけでも毎年１０億円以上の支出）や今後想定される主な修繕内容を踏まえると、現在の設備・規模を維持し続ける場合、膨大な費用負担が継続して発生することになります。

また、本市の公共ホールは築30年以上の施設が多く老朽化が進行していることから、近い将来、大規模改修や建て替えを行う必要性が生じる可能性があり、今後、川崎市立労働会館の様な大規模改修を行う施設が発生した場合には、さらに費用負担が増嵩することとなります。

これらの負担は将来世代への負担につながるため、今後見込まれる人口減少や厳しい財政環境等を踏まえると、本市の財政支出の削減に努めることが非常に重要となります。

（５）ホールの配置について

交通利便性の高い産業振興会館（約半数が市外利用者）を除き、各ホールとも、利用者（利用団体の代表者）の半数以上は当該ホールから概ね半径5km圏内に居住しており、「生活行動圏」内での移動が半数以上となっています。

産業振興会館についても、市内利用者に着目すると、「生活行動圏」での移動が多数（川崎・幸で半数以上）となっています。

生活行動圏とは

生活行動圏とは、市民の日常的な生活エリアのことです。

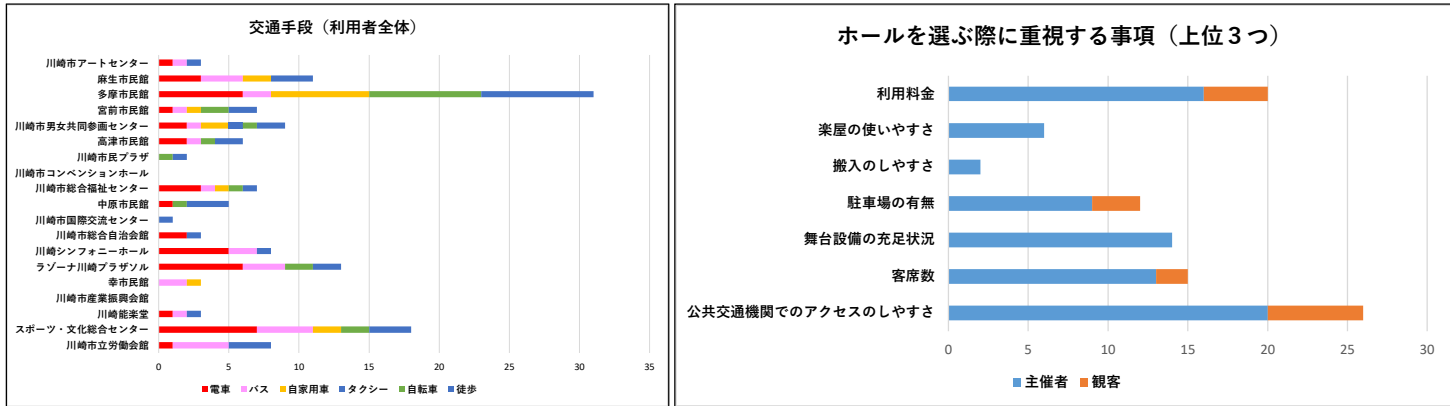
本市がめざす都市像や、まちづくりの基本目標などを定める

「川崎市総合計画」の中では、『生活行動圏』を川崎駅・臨海部周辺エリア、川崎・小杉駅周辺エリア、中部エリア、北部エリアの概ね4つに大別し、地域の特性を活かしたまちづくりを進めることが重要」としています。



利用者へのアンケートにおいても、ホールへのアクセス手段については、多くの利用者（利用者全体の約60%）が公共交通機関を利用しており、ホールを選ぶ際に重視する項目としては、「公共交通機関でのアクセス性」が「利用料金」を上回って1位となっています。（利用者アンケート調査より）。

施設利用者へのアンケート調査結果（アンケート期間：令和4年2月17日～令和4年4月22日）



（交通手段の回答母数：96人、ホールの選定基準の回答母数：45人）

このような状況を踏まえると、ホールの適正配置を検討する際には、地域のニーズにきめ細やかに対応する観点から、市民の生活行動圏を踏まえる必要があります。

4. 公共ホールのあり方検討にあたっての基本的な考え方【本編 P146～P147】

ホールのあり方検討にあたっては、総合計画に定める本市がめざす都市像やまちづくりの基本目標、『効率的・効果的な行財政運営による「持続可能な最幸のまち」の実現』などを基本理念とする行財政改革の視点を踏まえるとともに、川崎市文化芸術振興計画との整合を図りながら、以下の考え方で取組を進めるものとします。

（１）利用実態を踏まえた効率的・効果的な利活用に向けて

公共施設は施設単体で捉えた場合には、多目的な利用を促すことが市民の利用機会の拡大や資産マネジメントの観点から有効であると考えられますが、同一機能を有する施設それぞれを多目的化することが必ずしも有効であるとは限りません。

ホール機能を有する19施設をそれぞれ多目的化しようとした場合、利用用途それぞれに応じた設備を備える必要があります。

また、各ホールの利用実態等を踏まえると、今後将来にわたって現在の機能・規模を維持していくことは合理的ではないと考えられます。

加えて、資産マネジメントの観点からも、今後見込まれる人口減少、厳しい財政環境、将来世代の負担等を踏まえると、ホール機能を有する施設についてもこれまでと同様の設備・規模で更新していくことは非常に困難な状況です。

一方で、多様化・増大化する市民ニーズに的確に対応するとともに、現在の利用実態や将来の利用想定等を踏まえながら引き続き市民サービスを提供することも必要です。

そこで、各ホールの設備・規模等の検討にあたっては、市内の公共ホール全体の利用実態や配置状況を踏まえながら、現在の機能・規模の適正化を念頭に各ホールで適切に役割分担を行うことを検討します。

（２）各ホールの役割分担の検討にあたってのエリア設定の考え方

各ホールの利用者の居住エリアや交通アクセス手段等を踏まえると、川崎市総合計画（都市構造・交通体系）における「生活行動圏」（川崎駅・臨海部周辺エリア、川崎・小杉駅周辺エリア、中部エリア、北部エリア）内での利用が多いことが分かります。

本市のまちづくりの考え方においても、「市民の身近な日常生活は、住まいを起点に、近隣地域から身近な駅やターミナル駅周辺など、鉄道路線に沿ったエリアで展開」していることを念頭に、「地域生活拠点及び交通利便性の高い身近な駅周辺のまちづくり」を推進することとしております。

そこで、各ホールでの役割分担の検討にあたっては、「生活行動圏」をエリアとして設定し、それぞれのエリア内での各ホールでの役割分担を検討します。

（３）本市の公共ホール以外の施設との連携

資産マネジメント第3期実施方針においては、「必要な機能の整備を図るため、公共施設については、全てを本市が保有するのではなく、賃借を含めた適切な手法も使用する」こととしています。

ホール機能を有する19施設の利用状況を見ると、練習利用や少数での利用など、ホール以外でも対応可能と思われる利用もあります。

そこで、利用目的に応じて、本市の他の公共施設や民間の施設への誘導を図るなど、本市の公共ホール以外の施設との連携も視野に入れて検討を進めます。

5. 検討スケジュール【本編 P148～P149】

ホールのあり方検討にあたっては、「川崎市公共施設マネジメント推進委員会 ホールのあり方検討専門部会」での審議を行いながら進めるものとします。

